

3-10

移乗時における皮下出血防止対策について

～利用者にやさしい移乗介助を目指して～

情報共有

意識改革

特別養護老人ホーム ウエル江戸川

介護副主任 宇田川 佳広 (うだがわ よしひろ)	畑山 美雪 長谷川 沙織
東京都江戸川区平井7-13-32	大関 真美 宮本 夕紀
TEL : 03-3617-1112	E-mail : ueruedogawa@sunny.ocn.ne.jp
FAX : 03-3618-0294	URL : wel-edogawa.jp/

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	定員50名 ショートステイ6名 デイサービスセンター 訪問介護 居宅介護 支援の各事業を運営。その他、区委託として地域包括支援センター 配食サービス 熟年ふれあいセンター いきいきトレーニングの各事業を受託
----------------------------	---

〈取り組んだ課題〉

- ヒヤリハットによる皮下出血件数が多く、発生部位も似かよることから、皮フの弱くなった高齢者にとって、適切な移乗方法が実践されていないのではないかと考えられた。

〈具体的な取り組み〉

- ヒヤリハット用紙を活用し部位、発生場所を明記する
- 皮下出血を発見した場合ヒヤリハット用紙に記入し、情報の共有を図る
- 内部研修の実施
 - 1、基本的な移乗介助方法の再確認
 - 2、ぶつけやすい身体部位を想定し個々にディスプレイスカッションする
 - 3、皮下出血予防対策の検討
- 皮下出血防止対策
 - 1、個人に合わせた車椅子の見直し
 - 2、アームウォーマ・レッグウォーマの装着
 - 3、各利用者に合わせた移乗方法の取り組み
 - 4、ヒヤリハット用紙について、対応策実施後その有効性について10日後にカンファレンスにより再検討を行う

〈活動の成果と評価〉

- 研修前皮下出血件数→45件(5ヶ月間)
- 研修後皮下出血件数→38件(5ヶ月間)
- ヒヤリハット用紙を活用し皮下出血部位を表記することにより情報の共有が図れた
- 研修後
 - ①皮下出血に対して職員の注意が高まった
 - ②検討→実施→再検討と繰り返す事により日常的に観察するようになった
 - ③職員各々のアイデアを通じて予防対策を考える機会ができ、一体となって取り組む姿勢がもてた
 - ④移乗時の怖さを体験したことで移乗時により配慮するようになった

〈今後の課題〉

- 各利用者への移乗方法の応用
- 移乗介助時以外で出来た皮下出血に対しての原因への取り組み
- 「再発防止」ではなく、「予防対策」への取り組み

〈参考資料など〉

- おはよう21

【メモ欄】